



井原市の花 パンジー

# 井原市民病院だより

No.22

2012年10月発行

日本医療機能評価機構 病院機能評価Ver.6.0認定

地域とともに歩む、  
より愛される病院を目指して



「第二回井原市民病院  
健康まつり」を開催します

## Mission (使命)

地域住民の尊厳を守り、命を守り、  
健康増進を支援する

## Vision (将来展望)

いつでも安心してかかれる、  
身近で愛される急性期病院

## 今年のスローガン

「医療の標準化」と「断らない病院」  
ホスピタリティー（思いやりの心）を  
高めよう

Ibaraki City Hospital

## 井原市立井原市民病院

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地  
TEL 0866-62-1133(代) FAX0866-62-1275(代)  
E-mail byoin@city.ibara.okayama.jp

### 診療科目

内科・循環器内科・外科・整形外科・眼科・泌尿器科  
放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科  
婦人科・小児科・皮膚科

発行責任者：山田 信行

体調に不安を感じたとき、さてどこの医療機関へ行こうか、どの医者に診てもらおうかなどと思案することがおありだと思います。不安を解消してくれるであろう医療機関・医師を選び出す作業は案外むずかしいものです。

そして、誤った選択をするとあるいは余分な時間とお金を浪費することになりかねません。

このような悩みは、医療選択の自由と自由開業制によるわが国特有の現象であり、他の国ではおこり得ない恵まれすぎた悩みかもしれません。意外に思われるかも知れませんが、多くの国では、医療機関の数などの医療サービス量そのものが不足しているか、住民ごとに担当する医師・医療機関があらかじめ決められているか、あるいは、皆保険制度が不十分で、大袈裟にいいますと、長生きもお金次第で、医療費全額自己負担でご自由にどうぞといった国々まで存在し、しかもそれぞれのお国の伝統的衛生思想の中で、独自の制度がそれなりに国民に受け入れられています。

わが国では、さまざまな問題があるにしても、恵まれた医療サービス網による恩恵を享受できる一方、受診者すなわち皆さんの受診のあり方に混乱を招いている状況と言えそうです。

さて、話を元に戻しますが、医療へのかかわりで最も肝要な点は、出来るだけ身近で気楽に話せる家庭医と人間的つながりを深めることがとりわけ大切だと私は考えています。

ご承知のように、わが国では、医療行為ごとの価格が細かく決められています。そのためか、医療行為を単なる商取引と勘違いされ、体の具合がおもわしくないと、気楽に品定めをするかのごとく医療機関もうでをする人もまれではありません。

このような気まぐれな診療行動は決したあなたの体にも財布にも良い結果をもたらしません。

医療は患者と医師との共同作業であり、地道な付き合いから育まれる穏やかな人間関係のもとで最大の効果が得られます。

さらに、お金には代えられない医師との相談・連携こそが実りある医療成果を生む原動力になります。皆さんのパートナーとしてふさわしい医師を選任するための情報は、利害や作為が絡みやすい「名医百人」情

報や医療機関のホームページよりは、身近な口伝情報が信頼できる情報だと私は考えています。ただ、単なるうわさとか風評には耳を貸さないで、実際に病を克服した人、慢性病と闘っておられる身近な人々から、ご自身が直接お話しを聞いて納得した情報のみを信じるのが大切です。

次に大切なことは、慎重な手続きを経て決めた身近な医療機関を受診の総合相談窓口機能と捉え、専用かかりつけ医師とすることです。柔軟な対応が可能な開業医師は後方に多くの医師とのネットワークを持たれており、患者の病状に合わせてお互い紹介しあって診療がより良い方向で成就する努力を続けているものです。さらに重要なポイントは、中年を過ぎますと致死病的病気の発症・発見は意外と身近に起こりえる自然現象ですので、自らの人生の幕を降ろす場所を念頭に受療行動を考えることも大切です。例えば、検診を受け、悪性を疑うような報告書が送られてきた場合、まず、かかりつけ医師に相談し、かかりつけ医師からしかるべき精密検査を担当する医師へ紹介してもらう手続きを経ることが大切です。大学病院や大病院などを直接訪ねたりすると、院内をあちこち引っ張り回された挙句、結局何のために行ったのだろう、私の病気は何だろう、私の主治医はどなたなんだろうなんて結末になりがちですし、経費と時間が限りなく浪費されます。

逆に重大な病気が発見された場合、自宅から遠距離での極めて不慣れた療養環境下に置かれることもめずらしくなく、遠距離治療に通うことに疲れ果て、身近な地域の医療機関に替わりたいのだがといった相談を受けることも少なくありません。

市民の皆さんの身体情報は、診療料を斟酌せず、目であれ、鼻であれ、肺であれ、胃腸であれすべての病歴情報をかかりつけ医師でデータ管理をしてもらい、地域医療機関ネットワークの中で皆さんの体の管理をゆだねるのが最も費用対効果の点からもお勧めできる賢い手法といえます。

さて、市民の皆さんに愛され育てられてきた井原市民病院は地域医療ネットワークの最終的な医療機能の



砦として進化していきたいと願っています。市民病院の持てる機能を発揮すれば、かかりつけ医師の後方支援病院として市民の皆さんの期待におこたえ出来ると考えています。そして、より専門的かつ緊急的医療が必要な場合は、岡山・倉敷・福山などの高次医療機関との緊密な情報網を駆使して地域の皆様の頼りになる医療機関としての責務を果たしたいと考えています。

まずは身近な、かかりつけ医師と市民病院の医師の血のかよった相互連携の中で、急な病状の変化で安静入院が必要な場合はかかりつけ医師から市民病院へ紹

介され、病状の安定を得ると地域に帰っていただく。そして、市民の身体情報をお互い共有することで、井原地域全体の医療機関を育む活力が生まれ、医療行為にかかわるお金で地域が潤います。今後も、市民病院は市民の皆様と地域に密着した、かかりつけ医師によって支えられ発展していきたいと熱望しています。市民の皆様、井原市民病院が今後も、皆様に頼りにされる病院としてより進化するため、末永くご愛顧いただきますよう心よりお願いいたします。

## 地域研修感想文

岡山大学病院研修医  
野田 陽子

1ヶ月間、毎日があっという間に過ぎていき、ちょうど慣れた頃に終わってしまいました。盛りだくさんの研修でした。

井原市民病院では研修医の受け入れが初めてということで、受け入れの準備などいろいろと大変だったと思いますが、おかげさまでとても充実した研修ができました。大学とはもちろん病院のシステムも違い、分からないことや慣れないことが多く、そのたびにご迷惑をおかけしました。しかし、病院のスタッフの方々は皆さんとても親切で、困っている時にはいつも助けて下さいました。井原はスタッフ同士の距離が近く、雰囲気がとても良いと感じました。

研修は特にエコー室の方々にお世話になりました。この1か月の目標の一つが心エコーをできるようになることだったので、ほとんど毎日のように練習させて頂いて、本当にありがとうございました。技術の方はまだまだ時間もかかるし、ちょっと難しい人では取れないですが、基本的な取り方を身につけることができ

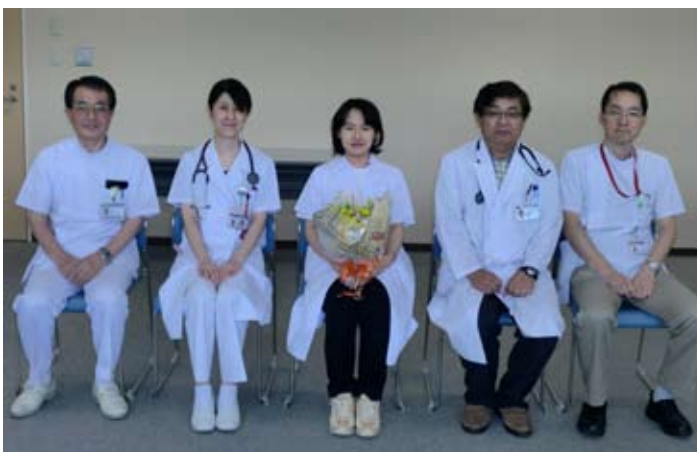
たと思います。

また山田院長先生のご提案により、最後にはピアノ演奏もさせていただきました。人前で演奏するのは8年ぶりだったので、いろんな方から良かったと言っていて嬉しかったです。



あとは地域研修ということで、地域と病院の連携についても考えることができました。患者さんの背景も考えながら、地域の中でいかにサポートしていくかということが大事だと思いました。それと大学病院以外の病院に行ったことがほとんどなく、一般的な症例をみたことがあまりなかったので、貴重な経験ができました。

井原で学んだことを今後にかけて、精進していきたいと思います。本当にお世話になりました。



## 『超音波検査の紹介』

臨床検査主任技師  
太田 直樹

臨床検査科は生理機能検査部門と検体検査部門に分かれており、生理機能検査部門には超音波検査、心電図検査、呼吸機能検査、脳・神経検査などが含まれます。

生理機能検査とは、検査機器を患者様に直接あてて情報を得る検査です。生理機能検査の中でも超音波検査は、心臓・腹部・乳腺・甲状腺・血管など、様々な領域の検査が可能となってきました。また、超音波検査の特徴として、痛みを伴わず簡便に繰り返し行うことができることから広くスクリーニング検査として施行されてきました。そして現在ではフルデジタル化された装置の更なる進歩により、病気の診断や経過観察にはなくてはならない重要な検査となっています。特に、心エコー図検査(心臓超音波検査)は循環器疾患



の診断に欠かせない検査となっていますが、心臓の状態(心臓の動きや大きさ、弁の状態や血液の流れ等)を詳しく評価するためには高度な技術と知識が必要となります。私達は知識の向上を目的とし、循環器専門医である山田院長、齋藤医師、山成医師(山成医院)、麻植医師(岡山大学)の指導の下に症例検討会を行っています。他院からも技師が参加し、様々な症例を検討することにより検査に必要な知識の向上に努めています。



井原市民病院超音波検査室には昨年、TOSHIBAの上位機種であるAplio400とAplio300が導入されており、より詳細な検査情報を得ることができるようになりました。

現在、生理機能検査室には5名の技師がおり、そのうち4名が超音波検査に携わっています。患者様に安心して検査を受けていただけるように、4名とも日本超音波医学会が認定する超音波検査士の資格を取得しており、知識と技術の向上に努めています。

これからも当院基本理念および職員の誓いに則って、患者様に安心・信頼していただける検査を心掛けていきたいと思っております。

## 心エコー図検査の説明

循環器内科医師  
齋藤 大治

「それでは心エコー図と心電図検査をしましょう」。心臓病で初めて病院を受診たら、医師はあなたを診察した後、殆どの場合こう言うでしょう。もし、「心エコー図も心電図も必要ない」と言われたら、それは、あなたが心臓病ではないと判断されたのかもしれない。それほど心エコー図検査は心臓病の診断に無くてはならないものなのです。

通常行う心エコー図検査(心臓超音波検査ともいいます)は体の表面から超音波を当てて心臓や血管の状態を診断するため、殆ど苦痛が無いことが大きな利点です。心エコー図検査では、必要な情報を正確に、か

つ漏れなく把握することが大切で、それには検査をする技師に高度な技術が要求されます。幸い当院の検査技師は、どこに出しても恥ずかしくない技術を持っており、我々医師としても、安心して検査をお願いすることが出来ます。



心エコー図検査の役割は大別して2つあります。第1は、心臓や血管の構造、形、大きさなどを診断することです。心臓内の仕切り壁に孔が開いていたり、心

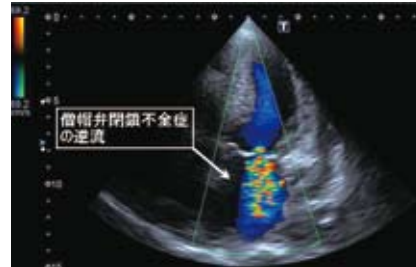
臓に繋がる大血管の位置が異常であったりする先天性心臓病の診断や、高血圧などで起こる心臓肥大、心臓の周りに水（心のう液）が溜まる、心のう液貯留の診断などは、心エコー図検査の独断場と言ってもいいと思います。

第2の役割は心臓の働きや、心臓・血管内の血流の状態（機能状態）を診断することです。心臓は収縮・拡張を繰り返すことで血液を受け入れ、体に送り出すのが仕事です。正常な心臓では血液の受け入れも、送り出しもスムーズに行われていますが、もしどちらか一方にでも問題が起きると、心不全といわれる状態になります。心エコー図検査は、この受け入れ、送り



出しが順調に行われているかどうかを判断する最も大切な検査です。また異常があった場合、そ

の程度や原因を診断することが大切です。心筋梗塞のように心臓の壁の一部に異常があるのか、心臓壁全体の働きが悪化しているのか、心臓内で血液の逆流が起こっているのかなど、詳細に診断できるのがこの検査の大きな強みです。特に、心臓や血管内の血流の方向、速度、スムーズさなど、他の検査では得られない貴重な情報が得られるため、最初に述べましたように、「先ず、心エコー図検査を」ということになります。写真



は僧帽弁閉鎖不全症（心臓弁膜症の一種）の心エコー図です。ドプラー法という方法を使って、僧帽弁から血液が逆流している様子を、黄色・赤・緑などの入り混じったモザイクとして観ることが出来ます。実際には心臓の動きや血流を動画として観るのですが、紙面では動画にならないのが残念です。

血液が逆流している様子を、黄色・赤・緑などの入り混じったモザイクとして観ることが出来ます。実際には心臓の動きや血流を動画として観るのですが、紙面では動画にならないのが残念です。

## 緩和ケアについて

緩和ケア認定看護師 川淵 朱美

日本社会と同様、医療の現場も超高齢化となっています。4年の内科系の病棟勤務を経て、外来処置室へ移動となり、日本人の2人に1人は癌に罹ると言われる中、抗がん剤治療を受ける患者様に携わるようになりました。その中で、もっと自分自身の知識・技術を高めたいという思いや、自分の行いたい看護は何かを考えさせられました。平成19年がん対策基本法に基づき、岡大でのがん研修に参加する機会を得ることができ、また、それを機にさまざまながんに関わる研修に参加しました。それらの学びから、その人らしく苦しまないで最期（死）を迎えるためには、どうしていきべきか、看護にも専門性が必要ではないか、そのために自分ができることは何かと



えはじめました。

平成22年緩和ケア認定看護師の半年の研修では、貴重な体験を積むことができ、新たな知識を上書きすることができました。また、志を同じくする仲間が全国にでき、今でも情報交換や相談をし、交流を続けています。



研修後は、院内での緩和ケアチーム委員会の立ち上げに関わりました。また、病棟・外来化学療法業務をしながら、認定看護師として緩和ケアレベル向上を図るため活動を続けています。一スタッフという位置づけですが、各「病棟スタッフ」や、「訪問看護」、「他職種」と連携をとり院内を横断的に活動しています。病院内のスタッフ全員が、すべての方の人生の最期が、苦しみを最小限にした良い形で迎えられようと考え、患者家族に関わってもらえることが私の目標です。

糖尿病は日本のみならず世界規模で急増している疾患の一つであり、井原市においても例外ではありません。

糖尿病と診断された後は、一生涯付き合っていく必要があります、生活習慣の改善を余儀なくされます。これは言葉で言うほど容易なことではありません。それに加え多様化する生活様式や環境により、良好な療養生活を送ることが困難なケースが多く、個別対応が求められています。療養生活を送られる患者さんの中には、良好なコントロールに近づけるためにどうしたら良いのか分からなくなる方もいれば、立ち止まる方もいらっしゃいます。私は、そのような時にこそ患者さんの思いを受け止め、今より1歩でもいいので前進できるよう支援をしていきたいと考えています。

しかし、個別対応だけでは不十分で、糖尿病患者の療養生活を支援する環境づくりも必要です。一つは患者同士の情報交換ができる場を作ること、二つ目は他のスタッフから、気軽に声をかけてもらえる姿勢を忘れないようにすることだと考えています。スタッフが糖尿病に関心を持つことにより医療・看護の質は上がってきます。認定看護師としての役割は実践・相談・指導ですが、これは患者さんにもスタッフにも果たしていく必要があると常に感じています。そのためにも、今後も自分自身の研磨を怠らないように取り組んでいきたいと思っています。



## 出前講座

平成 24 年 7 月 3 日に高屋中学校にて、性教育の出前講座が開催されました。

当院の品川小児科外来看護師が講師を担当しました。

「自分を大切にしよう」をテーマに全校生徒 187 名が参加しての講座になりました。

生徒さんの感想は

「自分たちは大切にされて生まれてきたんだと思った」

「何も考えずに SEX をしてはダメとわかった」

「癌は怖いんだ」などがありました。

今後も市民病院のミッションを果たすべく、地域貢献に努めて行きます。



## 井原市最高齢者 増尾 アサヨ様の 107 歳の誕生日会開催

5 階病棟師長  
池田 悦子



医療型療養病棟入院中の増尾 アサヨ様が、先月 107 歳の誕生日を迎えました。井原市最高齢者です。記録更新です。そこで、療養病棟看護スタッフ、中でも看護補助者が中心となり、誕生日会を企画しました。8 月 27 日に毎日食事介助に来て下さる二人の娘さん、増尾様の大好きな主治医の細羽副院長にも参加いただきました。山陽新聞・井原放送の取材もあり、少し緊張しながら、それでも和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。増尾様は花柄のシックな装いで薄化粧を施し、とてもかわいらしい様子でした。

二人の娘さんからは花束と大好きなアイスクリーム、看護補助者からは 7 月からこつこつ準備していた深紅の折バラ 107 個の花束と増尾様の似顔絵、看護師も加わったハンドベルの演奏と歌をプレゼントしました。この 1 年間、何回かの一般病棟での治療を乗り越えて、やっと迎えた 107 歳の誕生日です。翌日の山陽新聞には細羽副院長と娘さんとの写真も掲載されました。この先も 1 日 1 日大切に過ごしていただけるよう、看護スタッフ一同一所懸命お世話していきます。

## 医療安全研修

医療安全管理室  
岡本 吉生

平成 24 年 8 月 29 日 17:30～18:30

【題名】医療におけるヒューマンエラー対策の考え方

【講師】協和発酵キリン株式会社 岡山第一営業所 津田 直明氏

【対象者】全職員



8月29日、医療におけるヒューマンエラー対策の考え方と題して、ヒューマンエラー対策の第一人者自治医科大学医学部教授河野龍太郎先生のスライドを用いて研修会が行われました。

研修では、「100%安全は存在しないが、受け入れることのできないリスクがないようにすることによって、安全が保障される」「エラーを誘発する条件が少なくなればなるほど、リスクが少なくなる」とのお話をいただき、これを実現する為には、エラープールの思考手順を実践することにより、エラーの発生防止・拡大防止を図ることができると説明されました。さら

に、具体的な事例に対して、実際どのような対策が有効かお話をいただくことができました。

当院でも、ヒヤリハット報告の内容を今一度、見直し、エラープールの思考手順を使い、対策の検討を行っていききたいと思います。

次回は、医療者間、患者—医療者間のコミュニケーションのエラーは医療事故につながりうるという考えを元に、コミュニケーションツールの一つである「SBAR」について研修会を予定しています。

ヒューマンエラーとは、人間の本来持っている特性と人間を取り巻く広義の環境がうまく合致していない為に、引き起こされるものです。人間はエラーを避けることが出来ないという観点をスタート位置にして、少しでも少なくするために、段階を追って考えていく手法がエラープールの思考手順です。

コミュニケーションエラーとは誤伝達・省略によってエラーが引き起こされることです。

「SBAR」とは患者の状態変化など、緊急の情報を伝達する際に、「状況・背景・評価・提案」を最低限伝える手法のことです。

## 「行って来ます」と「ただいま」と

あべ こうぞう

なんでもないけど日常のごく当り前の言葉の一つとして「行って来ます」・「ただいま」、そして「行ってらっしゃい」・「お帰り」があります。

家から出る時や帰って来た時には誰が居ようと居まいと「行って来ます」・「ただいま」と声を出していますか。ただ黙って出て行って、なんとなく帰ったりはしてないでしょうね。「行って来ます」・「ただいま」は「気を付けて行って来ます」・「ただいま無事に帰って来ました」であり、「行ってらっしゃい」・「お帰り」は「気を付けて行ってらっしゃい」・「よくぞご無事でお帰り」なんです。

毎日の全ての始まりは朝太陽が東から出るように、今日1日の何事もが吾が家からスタートします。ですから、家から出るときは気持ちを引き締め安全を願う意味でも「行って来ます」と言うのでしょうか。また、出掛けた後のけじめや1日の何事かの終りとして家に帰ったら「ただいま」を言うのでしょうか。

そしてもし誰かが「行って来ます」・「ただいま」を言ったらあなたは言うて応えていますか。それこそ「行ってらっしゃい」・「お帰り」でしょう。言っても、言われても決して悪い気持ちになるものではありません、むしろ優しさ、温かさ、和らぎ感を持つはずで。

そうなんです、この一言が家族の結びつきであり、ひいては絆へと繋がるのでしょうか。勿論、家族だけの繋がりではなくて、学校や会社、何かの団体・サークル、地域のそれぞれの友達・同僚・仲間・おじさん・おばさんとして同じこと。

何んでもない、誰に言うでもない一言が自分自身にも言い聞かせ勇気付け、そして誰かを気遣い安心させているのです。励ましと感謝と労いでもあります。

さあ、皆さん「行って来ます」・「行ってらっしゃい」そして「ただいま」・「お帰り」を大きな声で言いましょ！



- \*バザー
- \*友愛セール
- \*屋台
- \*わなげ
- \*バルーンアート



### 記念講演

(演題) 『自然な死(尊厳死)を  
向かえたい方へ』  
(講師) 黒瀬 康平事業管理実践者

# 第2回 井原市民病院

# 健康まつり

## 11/18(日)

会場：井原市民病院  
時間：10時～14時

### 雨天決行

専門スタッフによる

## 体験コーナー

- \*薬剤師のすべすべ美肌水づくり (大人対象)
- \*おかしを菓の分包機で分けてみよう (こども対象)
- \*マスク式人工呼吸器の体験
- \*血圧脈波測定 (動脈硬化検査)  
★推定血管年齢がわかります!
- \*呼吸機能検査  
★肺活量・肺年齢がわかります!
- \*簡易測定機での血糖測定
- \*顕微鏡で血液像を見てみよう
- \*脳を活性化! 指体操
- \*歯科衛生士の相談コーナー
- \*栄養士の健康クイズ など
- \*人体模型で見てみよう! 胃カメラ実演コーナー



病院の色々な場所も見学できます♪

体験コーナーはいつでも  
受付していますよ~!

### 看護フェア

- 病院見学&説明会
- 復職支援セミナー
- 就職相談会
- 看護進路ガイダンス



看護職・看護学生・職場への復帰を  
お考えの方、ぜひご参加ください。

10時~14時まで  
随時お待ちしております

救急車も来るよ♪

### ロビーコンサート



### AED講習会



### プログラム

- \*10:00 ~ 10:05 オープニング 院長開会宣言
- \*10:05 ~ 10:45 記念講演  
黒瀬康平事業管理実践者
- \*10:50 ~ 11:20 AED講習会
- \*12:00 ~ 12:30 ロビーコンサート
- \*13:00 ~ 13:30 ロビーコンサート